

OUIK Newsletter

2019 年 3 月号



目次

2018 年のハイライト.....2

- ・金沢が 2030 年へ向けて本格始動、リレーイベント「SDGs いしかわ・かなざわダイアログ」
- ・OUIK 設立 10 周年記念シンポジウム「生物文化多様性から SDGs の達成を考える」ー石川・金沢の未来ー
- ・世界と繋がる「能登の里山里海」世界農業遺産(GIAHS) の取り組み

主な活動記録.....4

1. SDGs いしかわ・かなざわダイアログ

- ・SDGs ダイアログ第 2 回 「『誰も取り残さない』は誰のため？を考える」映画上映会
- ・SDGs ダイアログ第 3 回 小松サマースクールでの「SDGs ワークショップ」
- ・SDGs ダイアログ第 4 回 シンポジウム「地域企業が SDGs を実践するには」
- ・SDGs ダイアログ第 5 回 国際シンポジウム 都市景観をグリーンインフラから考えるー金沢市における活用と協働ー
- ・SDGs ダイアログ 第 13 回 『LGBT と教育フォーラム』第 2 回 in 金沢
～SDGs 「誰も置き去りにしない」から考える、地域コミュニティにできること～

2. 生物文化多様性に関する取り組み

- ・生物文化多様性ウォーキングワークショップ
- ・都市の生態系サービスを将来へつなぐ庭園クリーニングワークショップ
- ・トークイベント「Tea and Garden for Peace～都市と自然、人と人をつなぐ日本庭園とお茶の可能性～」

国際的な活動.....10

- ・第 16 回韓中日国際ランドスケープ専門家会議への参加
- ・第 14 回生物多様性締約国会合(COP14)での発表
- ・ICLEE 第 9 回国際会議への参加

人材育成.....11

- ・インターン生の紹介

新しいスタッフの紹介.....12

出版物の紹介.....12

✦ 金沢が2030年へ向けて本格始動、リレーイベント「SDGs いしかわ・かなざわダイアログ」

OUIK では、10周年を迎えた節目の年に、石川、金沢でSDGsを推進していくため、「SDGs いしかわ・かなざわダイアログ」と銘打ったリレーイベントを1年にわたって実施してきました。

2018年6月4日に、KKRホテル金沢でそのキックオフとなる円卓会議が開かれ、地域でSDGsを実施する16組のキーパーソンから活動の発表をしていただきました。これまでつながることがなかった参加者同士が円卓を囲んで、共感したり連携を模索したりしながら、2030年SDGs達成への思いを強めることができました。



SDGs達成のためには、社会、環境、経済などさまざまなセクターの課題解決を目指す主体による有機的な連携が不可欠とされています。計15回行われたこのリレーイベントは環境、教育、地域経済、LGBT、ジェンダーなど様々なテーマとSDGsの目標を組み合わせた形で開催され、地域社会における課題や現状について市民の皆さんと共に考える機会となりました。また、グローバルな視点で金沢市、そして世界の持続可能な発展へ向けての議論が行われ、2030年へ向けて大きな一歩を踏み出す1年となりました。

※それぞれのイベントについては「主な活動記録（4ページから）」においてOUIKが主催したイベントを中心に取り上げています。

✦ OUIK 設立10周年記念シンポジウム「生物文化多様性からSDGsの達成を考える」

ー石川・金沢の未来ー

金沢市、2018年10月3日

国連大学サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（UNU-IAS OUIK）の設立10周年を記念したこのシンポジウムは「SDGs いしかわ・かなざわダイアログシリーズ第8回」と位置づけ、次世代に地域文化や固有の自然をどう継承するか、そして2030年のSDGs達成につなげて行くかについて、活発な議論が行われました。

はじめに竹本和彦国連大学サステナビリティ高等研究所所長よりOUIKのこれまでの活動の紹介がありました。2008年に開設されて以来、2011年には能登が日本で最初の世界農業遺産に認定されたことや、2015年には金沢市の都市文化と自然のつながりや周辺の農村との関係性をひもといた「生物文化多様性圏」という考え方を世界に提案したこと、さらに2016年には「第1回アジア生物文化多様性国際会議」を開催して石川宣言を採択したことについても述べました。また、OUIKは地域に根を張る国際機関として、SDGsが国連で採択された2015年の当初から、その目標達成に向けて努力を傾け、生物文化多様性における石川・金沢ならではの豊かさの保全・活用に軸足を置きつつ、持続可能な地域社会モデルの実現を目指して活動を行ってきました。これからも、研究活動と地域と国際社会を結ぶネットワークの形成を通じ、引き続き地域社会に貢献していくことを述べて、話を締めくくりました。

次に来賓挨拶として谷本正憲石川県知事からは、2008年4月にOUIKが設立されることになった経緯や、第9回生物多様性条約締約国会合（COP9）で石川県の里山の取り組みをレポートし、名古屋で開催された



COP10 ではクロージングイベントを石川県で開催したことなど、当時を振り返る話が紹介され、「これからも新しいアイデアを出していただき、地域の活性化に貢献する、行動する OUIK であってほしい」と今後へのさらなる期待を述べて話を結びました。

金沢市副市長の細田大造氏は公務で欠席された山野之義金沢市長からの祝辞を読み上げました。国連大学が拠点を持っていることが、歴史、伝統、文化を有する金沢の新たな魅力につながっており、世界の交流拠点都市を目指す金沢市にとって、大変意義深いと述べられました。

基調講演では東京都市大学特別教授の涌井史郎氏より

「自然と文化のつながりを次世代に手渡すために」と題してお話いただきました。「日常生活で地球の未来が危機的なレベルであるということをもっと認識しながら、どのようにライフスタイルやワークスタイルを変えていくのかということが問われている。」と述べ、現在、地球には限界があるということを認識して、逆進的（バックキャスト）な考え方で今のライフスタイルや暮らしの在り方を見直していく必要があると語りました。また、自然と共生した人の暮らしや仕事がある石川・金沢では「地域共生循環圏」が形成されており、途上国などでの石川・金沢をモデルにした地域づくりやシステムの導入の可能性についても示唆しました。

第2部のパネルディスカッションでは、はじめに遠藤知庸氏（石川県農林水産部長）、萩のゆき氏（まるやま組主宰）、加藤麻美氏（ルーティヴ株式会社）、イヴォーン・ユー（UNU-IAS OUIK 研究員）、フアン・パストール・イヴァールス（UNU-IAS OUIK 研究員）、チャオ・ジュンタイ氏（SWAN International 台湾）より、それぞれの分野における活動報告が行われました。能登地域での地域の産業や文化を生かした取り組み、輪島市立三井小学校の森林環境教育支援、里海概念に基づく SDGs の活用についてなど、世界農業遺産に関する報告や、金沢における生態系サービス保全について、または台湾での茶の生物文化多様性についての取り組みなども紹介され、様々なご意見を頂きました。



ディスカッションの最後には「OUIK の次の10年に向けて」について意見交換が行われ、「日本の経験が開発途上国でも生かしていけるように世界へ発信して欲しい」（遠藤氏）、「林業の方にももう少し目を向けるようになってほしい」（加藤氏）、「視察に来た方ともしっかりと交流や学びあいができるようにしたい」（萩の氏）、「現場で働いている人たちは膨大な知識を持っているが、目まぐるしい現代の変化には適応できていない。私たちはこういう人たちからもっと学び、それを現代に適合させることが必要」（ジュンタイ氏）といった意見が出ました。モデレーターを務めた渡辺綱男（UNU-IAS OUIK 所長）は「石川・金

沢の地域が持っている、この場所ならではの自然とか文化の資源を見つめ直すということが一番ベースとして大事じゃないか。そういうところからこの地域らしい SDGs の取り組みというのが動いていけるんじゃないかと思いました。」と締めくくりました。

最後に総括として、中村浩二氏（石川県立自然史資料館館長・UNU-IAS 客員教授）は、「OUIK がサステナブルに活動できるように皆さんの応援をお願いしたい」と述べ、10周年を記念するシンポジウムは無事幕を閉じました。

✦ 世界と繋がる「能登の里山里海」世界農業遺産(GIAHS)の取り組み

2018年11月17日から19日にかけて、世界農業遺産（GIAHS）「能登の里山里海」に認定されている石川県能登地方にて「いしかわ世界農業遺産国際貢献プログラム」が開催され、国連大学、金沢大学、石川県立大学の留学生からなる世界13カ国総勢18名が里山里海を活用した地域振興の取り組みを学びました。

今回のスタディツアーは、石川県による GIAHS 国際貢献プログラム、UNU-IAS 学術プログラム、OUIK が能登をフィールドに共同企画・開催した初めてのスタディツアーです。これは UNU-IAS の学術プログラムの一環である Trans-disciplinary and Graduate Research Seminar(TGRS)という共同演習の1コマとして実施され、学生たちは「防災(レジリエンス)」「環境教育」「エコツーリズム」という3つの分野に分かれ、学際的なアプローチを用いた研究に挑みました。3日間に渡るこのプログラムでは輪島市、穴水町、七尾市、珠洲市などを訪れ、地域資源を活かした観光企画の開発、伝統知識や伝統的農法・漁法を次世代に受け継ぎ、活用していく取り組み、コミュニティによる伝統的な知識のアーカイブ化、などを視察、体験しました。



最終日の発表会では学生たちによる発表が行われ、地域の課題解決に向け、国際的な視点を用いたアイデアがたくさん飛び交う意見交換の場となりました。人口減少、高齢化という問題により、次世代への担い手が不足している日本の地域社会での様々な問題や課題は他の国のそれらにリンクしている部分も多く、学生たちからは「能登での取り組みを今後、母国で活用したい」という意見も多く出ました。

2018年は他にもフィリピン・イフガオから訪問団を受け入れるなど「能登の里山里海」が国際的な教育活動のフィールドとして活用されるケースが増えました。今後も持続可能な開発における研究の拠点となるよう更に推進していきたいと考えています。

主な活動記録 1. SDGs いしかわ・かなざわダイアログ

◆ SDGs ダイアログ第2回 「『誰も取り残さない』は誰のため?を考える」映画上映会

珠洲市、2018年7月22日、金沢市、7月29日

SDGs の理念である「誰も取り残さない」は、地球規模で考えると、今の経済開発や社会開発から取り残されないことを指します。しかし、SDGs は身近な一人ひとりの取り組みにも着目しています。身近な問題が解決し、それが広がることにより、結果として地球規模の問題解決にもつながるからです。

第1回上映会では『みんなの学校』を上映しました。この映画に登場するのは大阪に実在する大阪市立大空小学校です。突然転校してきたちょっとトラブルを起こす子に周囲は戸惑いを隠せませんでした。しかし一緒に時間を過ごすことで、大変なことも多いけれど実は自分たちも一緒に成長していくことができる、ということに先生も児童も気づきました。今、大空小学校では、発達障害がある子も、自分の気持ちをうまくコントロールできない子もみんな同じ教室で学んでいます。この学校に通っている児童たちは、「誰も取り残さない」ことの大切さ、「取り残す社会」より「取り残さない社会」の方が現実的に良くなる事を本質的に理解しているのです。これは学校のことだけではなく、大人が生きる社会でも同じです。持続可能な社会をつくっていく上で、実はこちらの方が合理的であり、すべての人が尊重され、その人の価値を発揮できる世の中になれば、結局は自分自身も住みやすい世の中になるということです。



上映会のあと、参加された皆さん、「World Theater Project 北陸支部」の金原氏、OUIK 事務局長の永井とでこの映画について意見交換を行いました。皆さん、この学校の存在に驚き、感動しつつも、多くの方が「あの校長先生がいたからできたことで、他では難しい」という感想を話されていました。その一方で、「たとえ難しくても、誰ひとり取り残さないことは実現不可能ではない」ということも実感されていたようです。

なお、7月29日の第2回は、映画『バベルの学校』が上映されました。



◆ SDGs ダイアログ第3回 小松サマースクールでの「SDGS ワークショップ」

小松市、2018年8月5日

OUIK と小松サマースクール(KSS)の共催で、高校生向けの「SDGs ワークショップ」を開催しました。

毎年夏に石川県小松市で開催されるこの日英バイリンガルサマースクールでは、全国から集まった高校生 60 人が、日本や海外の大学生と 1 週間寝食を共にします。自分の新たな一面を発見して、将来について思いを馳せる、「キッカケ作りの場」として今年で 5 回目の開催となりました。

今回のワークショップでは、SDGs のゴール 10「人や国の不平等をなくそう」に通じる、日本における差別や不平等について学び、平等や差別とは何かについて、高校生たちに考えてもらいました。

外部講師として、生まれながらに骨が折れやすい病気で、車いす生活を送るコラムニストの伊是名夏子氏と、自らもゲイであることを公にして、LGBT に関する法制度や政治関連の記事を書いて配信している松岡宗嗣氏のお二人を招き、「どのようにして自分のアイデンティティを確立していったのか?」「現在大切にしている価値観とは?」「一人ひとりを個人として大切にするために自分たちができることは?」など、テーマの掘り下げをしていきました。



お二人の経験や考え方に、高校生たちは大いに心動かれ、人を助けるということ、一人ひとりを「個」として尊重することの本質を知る絶好の機会となりました。それと同時に、さまざまな問題を解決する手段として、対話が重要であるということも理解したようです。また「やさしい世の中に変えていくことは自分のためにもなる」という二人の言葉は義務感や責任感でがんじがらめになっていた生徒たちの心を解きほぐしていったように見えました。

お二人の経験や考え方に、高校生たちは大いに心動かれ、人を助けるということ、一人ひとりを「個」として尊重することの本質を知る絶好の機会となりました。それと同時に、さまざまな問題を解決する手段として、対話が重要であるということも理解したようです。また「やさしい世の中に変えていくことは自分のためにもなる」という二人の言葉は義務感や責任感でがんじがらめになっていた生徒たちの心を解きほぐしていったように見えました。

◆ SDGs ダイアログ第4回 シンポジウム「地域企業が SDGs を実践するには」

金沢市、2018年8月7日

ダイアログシリーズ第4回は、SDGs をビジネス面で活用する方法について意見を交わすシンポジウムを2部構成で開催しました。

第1部は、企業にとって SDGs の意義、そして国際社会での動きについての沖大幹国連大学上級副学長からの基調講演から始まりました。沖上級副学長曰く、SDGs に取り組もうとしている人や企業はまだ少ないという実情がある一方、海外では、「ジェンダーの問題を考えていない企業の製品は置かない」といった動きも起きており、この先、実践しないとビジネスに影響が出るという状況が起ころうとのこと。また、SDGs への取り組みは企業のステークホルダーとの関係をより発展させ、新たな協働の機会を創出し、大きなビジネスチャンスが期待されているとコメントし、「よりよい社会になるためにはど



いう事ができるかを考えて、積極的にプレイヤーとして SDGs に参加してほしい」と結びました。

その後、パネルディスカッションでは SDGs を先進的に実践しているパネラーの皆さんに事例を紹介していただくとともに「グローバルや地域の課題をビジネスチャンスに変えるために何が必要なのか？」について、討論していただきました。「今後、金沢という地に新しい活動が生まれていけばいい。SDGs としての持続可能性が高まり、そこに関わる企業が持続可能に成長できる。そのヒントが見えてきたのではないか。」とモデレーターの平本督太郎氏（金沢工業大学 SDGs 推進室長）が第 1 部のパネルディスカッションを締めくくりました。

第 2 部では、「ジェンダー平等を取り入れることがビジネスチャンスをつかむこと」について国連女性機関日本事務所長の石川雅恵氏が講演し、ジェンダー平等によって見えてくるものや、真の女性活躍についてパネラーの皆さんと共に議論しました。社員の働きやすさや社会貢献を意識している石川の企業事例も紹介され、ジェンダー平等のためには、経営層、トップのやる気が大事、そして男性の意識改革だけでなく、女性の意識改革も重要であることなど、熱い討論が繰り広げられました。また、最近は環境(Ecology)、社会(Society)、ガバナンス(Governance)に力を入れている企業を重視・選別して行う ESG 投資が拡大していることから、女性活躍推進は企業にとってもメリットがあり、ジェンダーダイバーシティである企業の方がパフォーマンスがよいという事実も紹介されました。「今まで女性活躍は企業としてはやらなければいけないことだったが、これからは女性活躍をとり入れることで、それが企業の強みや競争力となる、そのように考え方を切り替えて、取り組んでいただければ」と石川氏は結びました。



◆ SDGs ダイアログ第 5 回 国際シンポジウム 都市景観をグリーンインフラから考える

ー金沢市における活用と協働ー

金沢市、2018年8月31日

2018年に「金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例」の施行 50 周年を迎えた金沢市で、都市景観をグリーンインフラから考える国際シンポジウムを開催しました。グリーンインフラとは、多機能性という視点から自然を再評価することによって、持続可能な社会形成を目指した土地利用計画のことです。金沢市ではこの条例により、金沢らしい町並み・景観のなかに埋め込まれている斜面緑地、用水、川筋景観、寺社景観、庭園などが保全・再生されてきました。そこで今回のシンポジウムでは「金沢の都市景観をグリーンインフラとしてとらえ直すことができるのではないか」という観点から国内外、さまざまな分野の専門家の方々に参加いただき意見交換が行われました。



第 1 部は「グリーンインフラを学ぶ」と題し、国内外のさまざまなグリーンインフラの事例紹介が行われました。住みやすい都市をつくるため、今すでに存在する用水や駐車場を活用することの方が大切だという意見や、グリーンインフラとは地域ごとに定義されるべきといった提案が出ました。



第 2 部は「金沢の都市景観をグリーンインフラから考える」をテーマに主に金沢のグリーンインフラに関する研究や取り組みが発表されました。金沢市の防災・環境・経済からみるグリーンインフラに関する報告では、グリーンインフラによる犯罪抑止効果や教育活動に関わる以外の効果が紹介され、金沢らしいグリーンインフラの可能性について語られました。持続可能な保全活動の必要性和協働的な管理についての発表では SDGs のゴール 11、ゴール 15、ゴール 17 と連動して実現していくことも提案されました。

第3部は「ラウンドテーブル」とし、参加者が顔を見合わせながら「都市景観をグリーンインフラとして活用する」について話し合いました。グレイインフラとグリーンインフラの比較、自然保護や自然保全をグリーンインフラという言葉に置き換えるメリット、グリーンインフラへの理解を深めてもらうためには、その多機能な効果の可視化をしないといけないなど、盛りだくさんな意見が出ました。SDGs ダイアログシリーズとして様々なアイデアを共有しながら、世界共通で持続可能な町づくりをしていくための、都市計画論、グリーンインフラ論をここ金沢から発信していきたいと考え、このシンポジウムがその最初の一步となった手ごたえとなりました。

✦ SDGs ダイアログ 第13回 『LGBTと教育フォーラム』第2回 in 金沢 ～SDGs「誰も置き去りにしない」から考える、地域コミュニティにできること～

金沢市、2018年12月9日



今年で2回目となるこのフォーラムでは、LGBTなど性的少数者をテーマに、学校現場で起こっている課題に触れながら、それぞれの立場で身近にできることについて考えました。セッション1では「SDGs視点で考える、LGBTと教育の接点」、セッション2では「学校と地域とLGBT～安心できる居場所づくりとは～」についてディスカッションが行われました。

はじめに総合司会のブルボンヌ氏からLGBTと、最近使われるようになったSOGIについて説明をしていただきました。SOGIは、セクシュアル・オリエンテーション（性的指向）、ジェンダーアイデンティティ（性自認）の頭文字であり、すべての

人々が「自分はどうか」というテーマになるので、分かりやすく、皆さんにも共通の問題として感じてもらいやすいという良さがあるそうです。



セッションのはじめにOUIK事務局長永井はSDGsのゴール5にジェンダーが設けられた背景や、そこにLGBTやSOGIの問題が明文化されていない事情を説明しました。さらにゴール10の「不平等を無くそう」の中で性的マイノリティーの問題が語られることが多いこと、SDGsにより、間違いなく性的マイノリティーの方を取り残さないというコンセンサスがあるということを強調しました。続いて金沢市教育委員会の新村氏は、来年度より教科化される中学校の道德教育において、体の性、心の性、好きになる性、表現する性の4つを説明し、大切なのは「誰もが自分らしく生きること」であることを考えさせるよう、生徒たちを指導していくつもりと述べられました。国会議員の馳氏は、性的少数者に対する差別が存在する問題について、超党派で「SOGIの課題を考える議員連盟」を作っており、できれば立法に入りたいと述べました。

少しずつですが動き始めているLGBTを取り巻く環境の中で他の登壇者の皆さんからは「学校の中で一人でも理解者を作れば、そこから少しずつ広がっていくことを実感している。そして孤立させずに正しい情報を伝えていくことが大事」（星野慎二氏/認定NPO法人SHIP代表）「大変だったけど、身にしみてわかったことは、世の中には本当に助けてくれる人たちもいるんだなということ。生まれ変わってもこの人生をもう一回歩んでもいいなと思えるようになった」（斎藤みどり氏/県立高校教師）、「北陸で過ごしている当事者の方が嫌だなと思って東京や大阪に出ていく数が減るように、何かしらお手伝いしたい。そして、戻ってもいいかもってなる場所にもなったらいいなと思います。」（松中権氏/認定NPOグッド・エイジング・エールズ代表）と、実体験に基づく力強いメッセージも沢山いただきました。また、セッション1と2の間にはLGBTを題材とし、数々の映画賞を受賞した「カラコエの花」の上映も行われました。

登壇者・関係者も含めて104名と、たくさんの方にご参加いただき、このテーマへの関心の高さを再確認しました。



✦ 生物文化多様性ウォーキングワークショップ

金沢市、能登 2018年4月4日、5日

OUIK はストックホルムレジリエンスセンター、東京大学 IR3S と共同で生物文化多様性ウォーキングワークショップを開催しました。南アフリカ、南米、スウェーデン、ハワイなど様々な場所で自然と人間のつながりを研究する参加者が、都市部と農村部を取り巻く様々な外的変化に対する生物文化多様性資源の役割、現状、保全を、五感を通じて体験しながら議論しました。

ワークショップ1日目、参加者は能登地方へ移動し、持続可能な地域づくりを目指すNPO法人「くくのち」の活動から、里山での暮らしや地域活動について学びました。この地域では自然環境を維持するだけではなく、地域の特色を活かした観光業や農業による経済的、社会的な発展を目標にした活動が若者を中心に行われています。高齢化や人口減少など、農村に共通する課題を抱えながらも落胆することなく積極的に取り組む住人の姿を参加者は高く評価しました。



2日目、金沢市内でのウォーキングワークショップでは尾山神社をスタート地点に玉泉院丸庭園、金沢城へ進み、伝統的な街並みが保存されている主計町や東茶屋街エリアにも足を運びました。その後、近年空家、空き地の割合が上昇傾向にある卯辰山麓伝統的建造物群保存地区を訪れ、都市部での人口分布の変化や高齢化、観光客の増加における影響について学びました。最後に訪れた心蓮社の日本庭園では9ページでも取り上げている庭園清掃ワークショップについての紹介もありました。

2日目午後に開催された国際シンポジウム「新しい都市の未来～文化、生物多様性、風景の交流～」では以下3つの基調講演が行われ、その後のパネルディスカッションではグローバルな視点で金沢市における生物文化多様性や海外での取り組みについての議論が繰り広げられました。

基調講演1. 「自然や文化と調和した持続可能でレジリエントな社会を創る」東京大学 IR3S 学連携研究機構 機構長/地球環境戦略研究機関 理事長 武内和彦氏

基調講演2. 「人の流れと持続可能な発展・平和のための生物文化的視点」ストックホルムレジリエンスセンター教授 トーマス・エルムクビスト氏

基調講演3. 「金沢を取り巻く生物文化多様性 川と用水をめぐる自然と歴史・文化」石川県立大学生物資源環境学部教授 柳井清治氏

このシンポジウムは日本スウェーデン外交関係樹立150周年を記念して日本学術振興会とスウェーデン研究・高等教育国際協力財団（JSPS-STINT）の二国間交流事業共同研究費により開催されました。今後も OUIK では「生物文化多様性」という考え方を元に石川県、そして金沢の持続可能な未来に向けた活動に力を入れていきます。



✦ 都市の生態系サービスを将来へつなぐ庭園クリーニングワークショップ

金沢市、2018年6月24日

金沢市の卯辰山山麓寺院群で、OUIK のフアン研究員の呼びかけで始まった「心の道歩き・心蓮社（しんれんしゃ）庭園清掃」のワークショップが開催されました。このワークショップは金沢市に多く残されている日本庭園を将来にわたって維持管理するためのシステム構築プロジェクトの一環です。日本庭園を保全するため参加者に清掃を手伝ってもらい代わりに、庭園を眺めながらのお茶会に参加できたり、庭園を様々な視点から学ぶことができるという内容です。回を重ねるごとに参加者も増え、新しい庭園管理のシステムとして着実にその成果が見えるようになってきました。



住職から庭の歴史の説明を受け、さらに造園の専門家から庭園の管理についてのレクチャーを受け、いよいよ清掃活動に入ります。一見、きれいに見える庭ですが、池の底にはたくさんの落ち葉が積もり、ヘドロのようになっています。それを掻き出すのは重労働で多くの人が必要です。また、池の正面の苔に覆われた部分は、スギゴケなど数種類の苔が繁茂して実に美しい佇まいです。しかしその苔を丹念にはがすと下からは戸室石の見事な敷石が姿を現しました。清掃活動では発掘作業のような慎重さが要求され、造園の知識がないと迂闊には手が出せません。しかしこのワークショップでは著名な造園家の方々も参加しているので安心して教わりながら庭を触る体験ができます。

清掃作業終了後は、庭を眺めながら和菓子と飲み物でくつろぎ、茶道体験や今日の振り返りなどを行いました。

参加者は県内の大学生、地元住人、県内在住の外国人や留学生の方が多く、実際に参加してみて庭園手入れに興味を覚え、親近感が深まったという方もいました。フアン研究員は、このワークショップを「エコツーリズム」へと発展させ、観光客や障害者にも参加を促し、新しい庭園の管理システムとして定着させたいと考えています。

この庭園清掃ワークショップは2018年に5回行われ、心蓮社の庭園だけではなく長町の千田家庭園でも開催されました。金沢市、日本造園学会石川連絡会、鰐隆弘教授（金沢美術工芸大学）とのコラボレーションで実現したこのワークショップを今後も庭園の所有者や行政、市民や観光客と協力して進めて行く予定です。



✦ 「Tea and Garden for Peace～都市と自然、人と人をつなぐ日本庭園とお茶の可能性～」

東京、2018年11月11日

東京の国連大学本部前で毎週末行われるファーマーズマーケットにてトークイベント「Tea and Garden for Peace～都市と自然、人と人をつなぐ日本庭園とお茶の可能性～」を開催しました。

OUIK 事務局長の永井三岐子がモデレーター、研究員のフアンがスピーカーを務め、石川県や金沢市における「生物文化多様性」に関する取り組みや、同ページ上部でも取り上げた庭園清掃ワークショップについて紹介、スペイン産のハーブティーとお菓子を楽しみながらのディスカッションが行われました。

スペイン出身のフアン研究員は元々建築学を専門としていました。伝統的な造園技術や日本庭園、その生態系に関心を持ったのは京都での留学がきっかけだったそうです。「日本庭園と茶道は、平和を築く力を持っています」と語るフアン研究員が現在金沢で行っている庭園清掃ワークショップでは毎回最後にお茶会が開催されます。自分たちが清掃した庭園を眺めながら、仲間と金沢の生物文化多様性や庭園の保全について語り合う、とてもものどかな時間が流れます。



永井事務局長は「この研究活動は、観光客が観光地を巡るだけでなく、日本庭園でお茶を楽しみながら自然環境や生物多様性の保全に、能動的に関わるという新たなエコツーリズムのモデルになると考えています」と述べ、是非金沢を訪れ参加してほしいと最後に呼びかけました。

国際的な活動

◆ 第16回韓中日国際ランドスケープ専門家会議への参加

韓国、ソウル、2018年10月4日、5日

第16回韓中日国際ランドスケープ専門家会議がソウルで開催されました。今回中心となったテーマは「都市の再生とランドスケープ建築」、さらにサブテーマとして

1) 公園と公共のスペース、2) 庭園と街、3) ガバナンスと市民、が挙げられました。

OUIKからはフアン研究員が参加し、金沢市における日本庭園の持続可能な保全活動やエコツーリズムによる都市生態系サービスの維持について発表しました。庭園清掃ワークショップについても紹介すると、参加者からは同じような取り組みを自分の地域で広めたい、という声が挙げられました。また、フアン研究員はSDGs11「住み続けられるまちづくりを」を達成するためにも、金沢市でグリーンインフラを取り入れた街づくりを促進させ、金沢の庭園や街並みを世界に発信したいと述べました。



◆ 第14回生物多様性締約国会合(COP14)での発表

エジプト、シャルム・エル・シェイク、2018年11月17日～29日

第13回に引き続き、OUIKは、Nature and Culture Summit ハイレベルセッションにて、第1回アジア生物文化多様性国際会議で採択された石川宣言の実施進捗を報告しました。

Nature and Culture Summit では、生物多様性条約事務局とユネスコが共同ですすめる「COP-14-3 生物多様性と文化多様性のつながりプログラム」を枠として、先住民族や地域コミュニティが持っている自然を利用する知恵、文化、権利を包括的に守っていきこうとする議論が交わされました。

OUIKからは渡辺所長が、石川県、FAOなどと進める石川国際貢献プログラムによる世界農業遺産を軸とした途上国の実践者への能力開発、アジア生物文化多様性国際会議1周年記念シンポジウムシリーズの開催、金沢における生物文化多様性イニシアティブにより生まれた日本庭園の新しい管理手法などについて発表しました。



✦ ICLEE 第9回国際会議への参加

台湾、台中、2018年11月26～28日

ICLEE(International Consortium of Landscape and Ecological Engineering)とは、東アジアを中心とした自然環境の保全・管理・再生に関する学協会が共同で設立したコンソーシアムのことです。

台湾の台中で行われた ICLEE 第9回国際会議は「農村地域のための有望な未来」をテーマとし、100名以上の研究者が参加し、口頭発表やポスター発表が行われました。

OUIK からはフアン研究員が参加し、「エコツーリズムによる都市生態系サービスの持続可能な保全」についての研究発表を行いました。参加者は金沢市における生物文化多様性の高さや用水と庭園の伝統的、歴史的な関係にも興味を示しました。

また会議の後には他の参加者と共に地元の紅茶農園を訪れ、地元のコミュニティーや里山での活動を視察しました。農村部、都市部の生態系システムは一見違って見えても似たような問題を抱えているケースが多く、それらを保護するための共通の認識や合意が必要とされると議論されました。



人材育成

✦ インターン生の紹介



松尾 茜

京都大学大学院地球環境学舎 修士1年

(インターン期間 2018年9月-12月)

インターンシップ研修では、能登を中心に石川県内の多くのフィールドを訪問し、様々なアクターの皆様と交流することで、当初立てた三つの目標：1. 修士研究『里山里海を活用した持続可能な地域観光開発に関する研究 -能登の世界農業遺産認定地域を対象に(仮)-』の基礎調査、2. OUIKの活動内容理解、3. 卒業後のキャリア構築のための社会経験、を達成することができました。

特に焦点を当てたのは、「いしかわ世界農業遺産国際貢献プログラム」です。JICA 事業で研修に訪れたフィリピン・イフガオ州からの皆様、UNU アカデミックプログラムでスタディーツアーに参加した国連大学の留学生の皆様と、能登のフィールドで共に学びながら交流を深めた経験は、私にとって生涯の財産となりました。

絵本『ごっつおをつくろう』を活用した能登 GIAHS 教育・普及啓発資料作成ワークショップの運営にも関わらせていただき、里山里海の価値を次世代に受け継いでいくことの大切さと難しさを改めて実感しました。

金沢市内でも、日本庭園や茶道など、東京出身の私には馴染みの薄かった美しい日本の伝統文化を存分に学ぶことができました。能登のお茶炭を使った茶道体験をさせていただいたことで、金沢の文化が能登の自然と密接に繋がっていることに気が付いた時、OUIK の提唱する「生物文化多様性」の概念が、ずっと腹に落ちたことが、とても印象的です。インターン研修中にお世話になった石川県の皆さまへの心からの感謝の気持ちを込めて、修士研究にまい進したいと考えています。

新しいスタッフの紹介



富田 揚子

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
プログラムアソシエイト

石川県加賀市出身、大学卒業後渡英、酒造企業などで働き、海外の製品や文化をアジアのマーケットや日本人に紹介する側として経験を積みました。久しぶりに帰国したとき、子どもの頃とは違った目線で見た地元の風景、食文化、伝統に感動を覚え、次は日本の文化や伝統を海外に発信する側で地域に貢献したいと思いました。

その後、去年11月に OUIK に入るまでは、白山手取川ジオパークで国際関係のコーディネーターを務めました。ジオパークでの取り組みを国際的に発信したり、ツーリズム関連のプロジェクトを推進してきました。また、ユネスコや日本ジオパークネットワーク (JGN) と共にアジア太平洋地域の能力開発事業等にも携わってきました。大学時代は国際関係学を学び、インド、ケララ州にある小さな NGO で活動していた経験もあり、国際協力や地域連携、草の根レベルでの地域開発にも興味があります。現在 OUIK ではプログラムアソシエイトとして広報を担当すると共に SDG s や GIAHS 関連のプロジェクトに従事しています。

2018年の出版物

● **The Road to Globally Important Agricultural Heritage System (GIAHS) United Nations University's Journey with Local Communities 世界農業遺産への道 国連大学と地域の歩み**

編著者：イヴォーン・ユー、永田明、発行：国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) (2018年1月23日)

● **ごっつおをつくろう** 制作：能登地域 GIAHS 推進協議会、編集・発行：国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) 監修：伊藤浩二、萩のゆき、イラストデザイン：ほんだゆきこ、文：小山明子 (2018年3月)

● **里山里海マップブック地図から学ぶ北陸の里山里海の見方 (生物文化多用性シリーズ4)**

編著者：飯田義彦、発行：国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) (2018年6月1日)

● **アジア生物文化多様性国際会議開催一周年記念国際フォーラムシリーズ記録誌**

編集・発行：国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) (2018年12月)

上記の出版物は以下の URL または右の QR コードよりアクセスし閲覧、ダウンロードしていただけます。
<http://oui.k.unu.edu/publication>



発行2019年3月

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

〒920-0962 石川県金沢市広坂 2-1-1 石川県政記念いのき迎賓館 3 階 Tel: +81-76-224-2266 Fax: +81-76-224-2271
Email: unu-iasouik@unu.edu URL: www.oui.k.unu.edu



<https://www.facebook.com/OUIK.UNU.IAS/>



OUIK いしかわ・かなざわ



@unu_ias_ouik